

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 22 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520622

研究課題名(和文) 英語教師実践ナラティブにおける書記言語・音声言語、および日本語・英語の選択

研究課題名(英文) Effects of written language (English/Japanese, private/published) on journal writing for teacher development

研究代表者

柳瀬 陽介 (Yanase, Yosuke)

広島大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：70239820

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：書記言語によるに関しては、二次観察という理論的枠組みでその意義を捉え直し、二次観察による自らの実践の「客観化」が促進される過程を実証的に示し、さらに「客観性」に関する根源的な問い直しも行った。

自国語(日本語)と目標言語(英語)での差に関しては、それぞれに込められた機能と認識の差異を実証的に解明し、英語が実践との感情的距離を保つために使われたり、英語教師にとってもコミュニケーションの実質的手段としてはみなされていなかったりするといった興味深い結果が得られた。また、同僚の方言混じりの日本語を国際学会発表のために英語に翻訳する過程で、日英語を問わないことばの学びが深まったといった事例も報告した。

研究成果の概要(英文)：We used 'second-order observation'(Niklas Luhmann) as a new theoretical framework for understanding narrative description in written language, gained empirical data of such observation, and proposed a revised conceptualization of 'objectivity' in writing about one's own practice.

We also explored the issue of the use of either the first or second language, and found that the second language can be used to establish an appropriate 'emotional distance' toward conflicts in practice, and that the second language is not yet regarded as a substantial means of communication. We also found that meta-linguistic awareness promoted deeper insights into language when a practitioner had to translate between the two languages.

研究分野：英語教育

キーワード：ナラティブ リフレクション 教師の成長 教師教育 書記言語

## 1. 研究開始当初の背景

教師ナラティブ研究は TESOL Q が 2011 年 (Vol. 45, No. 3) において特集号をくむなど、国外では今まさに隆盛であるが、国内ではそれほどの充実を見るには至っていなかった。教師ナラティブは教師の質向上のための重要な実践であるが、その研究がまだ我が国で十分に発展していないことは、日本の英語教育研究にとっての大きな欠損であると考えた。

## 2. 研究の目的

英語教師がリフレクションとナラティブによって自己成長を遂げることの効果は理論的にも実証的にも認められてきている。しかし、「ナラティブ」については、(1)音声言語か書記言語か、(2)日本語か英語か、で行われることによる差異が生じると考えられるものの、その差異についての検討は不十分である。したがって本研究は、(1)英語教師実践ナラティブを書記言語による記述に絞って検討して、書記言語の効果を集中的に理論的・実証的に解明し、かつ(2)英語教師の自国語である日本語と、英語教師の目標言語である英語で記述した場合の差異も理論的・実証的に明らかにすることを目的とした。

## 3. 研究の方法

一年目は日本語での実践記述者と英語での実践記述者それぞれ一名ずつを主対象として対照的に調査を進め、二年目はさらに日本語実践記述者と英語実践記述者それぞれ一名ずつを加えてさらに多角的に調査を進めた。研究協力者へのインタビュー(ライフストーリーの聞き出しも含む)と学校現場でのエスノグラフィックな観察を基本とし、研究者と研究協力者(複数)によるフォーカス・グループ形式でのインタビューも行った。一方、口頭言語・書記言語、自国語・目標言語・翻訳についての理論的基礎研究も継続して行い、データの分析に利用した。

## 4. 研究成果

(1) 書記言語によるナラティブ記述に関しては、二次観察(second-order observation)という理論的枠組みでその意義を捉え直し、その二次観察による自らの実践の「客観化」が促進される過程を実証的に示し、さらに「客観性」に関する根源的な問い直しも行った。

た。

(2)の自国語(日本語)と目標言語(英語)のナラティブ記述での差に関しては、それぞれに込められた機能と認識の差異を実証的に解明し、英語が実践との感情的距離を保つために使われたり、英語教師にとってもコミュニケーションの実質的手段としてはみなされていなかったりするといった興味深い結果が得られた。また、同僚の方言混じりの日本語を国際学会発表のために英語に翻訳する過程で、日英語を問わないことばの学びが深まったといった事例も報告した。それぞれ詳しくは、下記の発表論文等を参照されたい。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

(1) 柳瀬陽介・山本玲子・榎葉みつ子(2015)「英語教育の「危機」と教育現場」『中国地区英語教育学会研究紀要』No.45, pp.31-40. (査読付き)

(2) 柳瀬陽介(2014)「人間と言語の全体性を回復するための実践研究」『言語文化教育研究』No. 12, pp. 14-28. (査読付き)

(3) 榎葉みつ子・大塚謙二・坂本南美・柳瀬陽介(2014)「英語教師が自らの実践を書くということ(2)一中高英語教師が自らの実践を公刊することについて」『中国地区英語教育学会研究紀要』No.44, pp.97-106. (査読付き)

(4) 榎葉みつ子・上山晋平・山本真理・柳瀬陽介(2013)「英語教師が自らの実践を書くということ(1)一日本語・公開ライティングと英語・非公開ライティングの事例から」『中国地区英語教育学会研究紀要』No.43, pp.61-70. (査読付き)

[学会発表](計 11 件)

(1) 柳瀬陽介 The Second Person in Narrative: How a mentee finds a mentor 2014 年 8 月 28 日 KCUFS Reflective Practice Conference (招待講演) 会場: 神戸市立外国語大学

(2) 柳瀬陽介 Effects of written language (English/Japanese, private/published) on journal writing for teacher development 2014 年 8 月 15 日 国際応用言語学会(AILA) 会場: the Brisbane Convention and Exhibition Centre, Australia

(3) 榎葉みつ子 「英語教育の担い手

にとっての危機 教育は人なり」  
2014年6月21日 中国地区英語教育  
学会（招待講演）会場：島根大学

(4) 柳瀬陽介「英語教育の本当の  
「危機」とは」2014年6月21日 中  
国地区英語教育学会（招待講演）会  
場：島根大学

(5) 柳瀬陽介「「客観性」を問い直  
し、量的研究の「客観主義」を乗り越  
える」2014年6月7日 JACET 中部  
支部大会（招待講演）会場：椋山女学  
園大学

(6) 柳瀬陽介「人間と言語の全体性  
を回復するための実践研究」2014年  
3月15日 言語文化教育研究学会（招  
待講演）会場：早稲田大学

(7) 柳瀬陽介「J-POSTL は省察ツ  
ールとして英語教師の自己実現を促進  
できるのか」2014年3月9日 言語教  
育エクスポ（招待講演）会場：早稲田  
大学

(8) 柳瀬陽介「英語教育と生きるこ  
と」2013年10月27日 全国大学国語  
教育学会（招待講演）会場：広島大学

(9) 柳瀬陽介・櫻葉みつ子・大塚謙  
二・坂本南美「英語教師が自らの実践  
を書くということ(2) 一中高英語教師  
が自らの実践を公刊することについて」  
2013年8月9日 全国英語教育学  
会（招待講演）会場：北星学園大学

(10) 柳瀬陽介「英文学関係者は時  
代の流れに抗するべきではないのか」  
2013年5月25日 日本英文学会（招  
待講演）会場：東北大学

(11) 柳瀬陽介・櫻葉みつ子・上山晋  
平・山本真理「英語教師が自らの実践  
を書くということ(1) 一日本語・公開  
ライティングと英語・非公開ライティ  
ングの事例から」2012年8月4日 全  
国英語教育学会（招待講演）会場：山  
形大学

〔図書〕(計 1 件)

(1) 柳瀬陽介・組田幸一郎・奥住桂  
(編著) (2014) 『英語教師は楽し  
い 迷い始めたあなたのための教師  
の語り』ひつじ書房(総ページ 232 ペ  
ージ)

〔その他〕

ホームページ等

英語教師が書くということ - 日本語  
あるいは英語による自らの実践の言  
語化・対象化 - (発表要旨)

[http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2012/06/  
blog-post\\_19.html](http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2012/06/blog-post_19.html)

全国英語教育学会課題研究フォー  
ラム(8/4)当日進行について

<http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2012/08/>

84.html

「中高英語教師が自らの実践を公刊  
することについて」の発表要旨

[http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2013/07/  
810.html](http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2013/07/810.html)

日本英文学会シンポジウム「文学出  
身」英語教員が語る「近代的英語教育」  
への違和感：報告と資料掲載

[http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2013/04/  
85-526.html](http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2013/04/85-526.html)

「言語教育と生きること」(10/27(日))  
全国大学国語教育学会ラウンドテー  
ブル 会場広島大学)

[http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2013/09/  
1027.html](http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2013/09/1027.html)

J-POSTL は省察ツールとして英語教  
師の自己実現を促進できるのか

[http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2014/03/  
j-postl-2014.html](http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2014/03/j-postl-2014.html)

3月15日(土) 言語文化教育研究会  
シンポジウム「言語教育の目的と実践  
研究」

[http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2014/02/  
315.html](http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2014/02/315.html)

柳瀬陽介(2014)「人間と言語の全体  
性を回復するための実践研究」

[http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2014/12/  
2014-12-pp-14-28.html](http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2014/12/2014-12-pp-14-28.html)

柳瀬・組田・奥住編(2014)『英語教  
師は楽しい 迷い始めたあなたのため  
の教師の語り』

[http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2014/08/  
2014.html](http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2014/08/2014.html)

Effects of written language on journal  
writing

[http://yosukeyanase.blogspot.jp/2014\\_08  
\\_01\\_archive.html](http://yosukeyanase.blogspot.jp/2014_08_01_archive.html)

パネルディスカッション『今日叫ばれ  
る「英語教育の危機」とは?』

[http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2014/05/  
blog-post\\_31.html](http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2014/05/blog-post_31.html)

「客観性」と問い直し、量的研究の「客  
観主義」を乗り越える

[http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2014/06/  
blog-post.html](http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2014/06/blog-post.html)

## 6 . 研究組織

(1)研究代表者

柳瀬 陽介 (Yanase Yosuke)

広島大学教育学研究科・教授

研究者番号：70239820

(2)研究分担者

吉田 達弘 (Yoshida Tatsuhiko)

兵庫教育大学学校教育研究科・教授

研究者番号：10240293

玉井 健 (Tamai Ken)  
神戸市外国語大学・教授  
研究者番号： 20259641

榎葉 みつ子 (Kashiba Mitsuko)  
広島大学教育学研究科・准教授  
研究者番号： 20582232

横溝 紳一郎 (Yokomizo Shinichiro)  
西南女学院大学・人文学部・教授  
研究者番号： 60220563

今井 裕之 (Imai Hiroyuki)  
関西大学・外国語学部・教授  
研究者番号： 80247759